

(2)

詩壇時言

荻原朝太郎

文学界でたのまれてるもの、はるはる、毎日詩壇の時評を書くことである。しかし狭い詩壇の特殊問題はかり書くのは、私自身として、屈なし、特にまゝ本誌のやうに、散文方面の讀者も多く持つところ、雑誌では、讀者のあんな